

## 会議議事録

会議名	2024年度第2回看護分野教育課程編成委員会
開催日時	2025年2月4日(火) 15:00~17:00
場 所	早稲田速記医療福祉専門学校 1階・会議室
出席者 (敬称略)	①企業等委員：大沼扶久子(公益社団法人東京都看護協会西部地区理事)、小林映子(社会医療法人河北医療財団河北総合病院看護部長)(計2名) ②本校委員：川口拓也(校長)、伊東由美(看護科学科長)、榊原幸之(事務局長)、前田律子(オブザーバー)、岡本隆行(看護科教員)、渡邊明子(看護科教員)(計6名) ③事務局：安里良美(1名) (合計9名)
欠席者	なし
配付資料	①事前送付：資料1：2024年度第1回看護分野教育課程編成委員会議事録 資料2：前回委員会以降の主な経過報告 資料3-1：シラバス キャリアデザインⅢ 資料3-2：新カリキュラム完成年度運営状況 資料3-3：2025年度3学年実習計画 資料3-4：2025年度臨地実習の変更事項と課題 資料4：2026年度生A0入試内容について 資料5：Opencampus参加状況 資料6：A0入試導入の経緯
議 長	伊東学科長
議題等	<p>1. 校長挨拶 川口校長より、看護分野の志願者は大きく減少している。今後18歳人口が減ってくると、看護、保健福祉の分野でも外国人留学生に頼らざるを得ない状況が出てくると思う。本校でも全ての学科において留学生が徐々に増えており、介護福祉科は今年十数年ぶりに定員を増やした。新たな経験ができることを一つのチャンスと捉えていきたい、との挨拶が行われた。</p> <p>2. 前回委員会議事録の確認(資料1) 議長より前回議事録(案)について諮ったところ、特段の意見はなく、個人情報に配慮して保存・公開することが確認された。</p> <p>3. 前回委員会以降の主な経過報告(資料2) 学科長より資料2に基づき説明が行われ、確認、了承された。</p> <p>4. 2024年度の活動報告 ①新カリキュラム実践報告 キャリアデザインⅢ報告(資料3-1) ②新カリキュラム完成年度 実施状況と課題(資料3-2) ③2025年度臨地実習に向けての整備 3学年実習計画(資料3-3) 2025年度の臨地実習の変更と課題(資料3-4) 各担当者より、資料3-1~3-4に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明及び質問・意見の詳細は別紙のとおり。</p> <p>5. 2025年度 学生確保への取り組み ①2026年度入学生A0入試導入(資料4) ・Opencampus参加状況(資料5)・導入までの経緯(資料6) 学科長より、資料4~6に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明及び質問・意見の詳細は別紙のとおり。</p> <p>6. 次回日程、その他 ・2025年度第1回委員会 ①2025年度カリキュラム案へのご意見伺い 他 次回日程は、2025年7月8日(火)15時~17時(予定)となった。</p>

以上

(別紙)

## 2024 年度第 2 回看護分野教育課程編成委員会の主な討議内容

### 4. 2024 年度の活動報告

#### ①新カリキュラム実践報告

キャリアデザインⅢ報告（資料 3-1）

○伊東学科長より、キャリアデザインⅢの位置づけ、取り組み内容について説明した。

- ・学年交流は、先輩の 3 年生がやりがいを持って主体的に取り組んでくれた。
- ・模擬試験受験の 6 回は見直して、別のものを入れたほうがよいと考えている。

#### ②新カリキュラム完成年度 実施状況と課題（資料 3-2）

○岡本教員より、5 つの視点で、新カリキュラム完成年度の振り返り、新カリキュラム移行に伴う現状と検討課題について説明した。

1) 潜在的カリキュラムの健在化：キャリアデザインを授業化したことにより出席率の向上には寄与できたが、可能な回数まで意図的に欠席する学生が浮き彫りになった。キャリアデザインについて理解を深める説明の再構築が必要。

2) 科目の分割：欠席時間の減少と学習姿勢の向上を狙って 1 科目 30 時間の科目を 2 つ（Ⅰ・Ⅱ）に分割した。出席率の向上には寄与したが、終講試験の数も 2 倍に増えるため学生の負担感が強くなった。Ⅰはレポートや出席点、課題点で評価し、Ⅱで終講試験をするなどの工夫が必要。

3) 1 日の授業時間数上限に照らしたカリキュラムの分散：看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインにある週 30 時間（1 日 6 時間×5 日）に収めるためカリキュラムの分散を図ったが、物理的に収まらない事態が発生した。再検討が必要。

4) 未習得科目を抱えた進級：1～2 科目未習得を抱えた状態で進級する学生が常態化しているため、テストの日の設定が難しくなっている。

5) 各実習の目標やスケジュール等の明示化：新カリにおいて実習目標を検討し直し、領域ごとに実習スケジュールを要項に明示するなど、目標達成に向けて取り組める環境を整備した。今後、実習施設が様々になるので、どこまで連携できるかが課題。

#### ③2025 年度臨地実習に向けての整備 3 学年実習計画（資料 3-3、3-4）

○渡邊教員より、2025 年度の実習計画と課題、対応について説明した。

（実習計画）

- ・3 年生：夏休みが一斉に取れないので、グループごとに確保する形で試みる。
- ・2 年生：以前は 6 月にあった基礎看護学実習Ⅲは、夏休み時期の 8 月に複数の施設を使用して行う。
- ・1 年生：基礎看護学実習ⅠとⅡは、受け入れていただく時期と授業の進み具合等を考慮しながら検討を進めていく。

（課題と対応）

- ・学校側が求める看護師像や学校で教えていること、施設側に求めることなど両者で調整を図り、教員の研修等も実施しながら、教員も学生も不安なく実習が迎えられるようにしたい。
- ・実習に当たっては、今までよりも丁寧にオリエンテーションを行う。
- ・学生が自立していく機会にもなるので、見守りながら指導していきたい。
- ・学校内でもほどよい緊張感を持って生活指導を行いたい。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>・実習の段階が上がると看護過程を展開するが、患者さんの情報の取り方やアセスメントの仕方を言葉で説明してもなかなか実践できない。実習先が変わると、現場の看護師たちの行動も様々なので学生が戸惑うのではないか。</p> <p>・スタッフでも、「看護記録」というとデータだけを書いて、どういう看護をしたかを言葉に残すことができない。考える力、伝える力が低くなっている印象がある。</p>	<p>・実習の目標の置き方が学生主体になっている。看護はその人の人生や生活を支えるための支援をするものなので、患者さんを主語にして目標を書くトレーニングを徹底的にやっている。</p> <p>・学生は実習場に慣れるので精いっぱいな部分もあるので、あまり求め過ぎず、言葉できちんと伝えることを大切にしたい。</p> <p>テンプレート世代で、テンプレを埋めるのは上手だが、余白を埋めることができない。</p>

5. 2025年度 学生確保への取り組み

①2026年度入学生AO入試導入（資料4）

- ・Opencampus 参加状況（資料5）
- ・導入までの経緯（資料6）

○伊東学科長より、導入の経緯、AO入試の内容について説明が行われた。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>・看護師の採用面接において工夫されていることがあれば伺いたい。</p> <p>・今は年内入試が当たり前で、AOには一番優秀な学生が来る実態がある。</p>	<p>・面接の練習に出てくるような質問はしない。家での役割を聞いたり、整理整頓ができるか、ごみ捨てるの日を知っているかなど、看護に必要な生活力を知る質問をする。</p> <p>・実習中に会った看護師の魅力などを語ってもらうことで、コミュニケーション力や表現力が見られる。</p> <p>・事前課題の選び方も大事だと思う。生成AIが使えないように、自分が感じていることや自分のしたいことなどを書かせて、それを面接で掘り下げて聞くとよい。</p>

以上